関西大學新報

発行所
関西大学新報社
大阪市大淀区長柄中通2
電話（371）2072
発行人兼編集人
千神国夫
（一部10円）

論説

学友会活動に審判を

秋季学生大会への期待

第十六回学園祭は終った。当初この学園祭を推行する実行委員会では「まず一般学生が参加する学園祭」にするとして第一目標に掲げ第一目目のフォークダンス、三目目のバドミントン、卓球大会など新らしい企画をもってこれに臨んだ。学園祭を終えた今学生を集めることにおいては例年をやや上回ったようにみえる。また各クラブが行う演技や研究発表などには、昨年に比して充実したものをみた。しかしそれらに参集する学生の数は去年並である。結局、百二学園祭●ものを意識して参加した学生の比率は大差なかった。過去十五回の学園祭のたび形式だけにとらわれた執行部を中心とした学園祭推行者の沈滞したマンネリから、何とか抜け切ろうとした、今年の学園祭推行者に対しては少なからず好評価されて良い。

しかし毎回繰り返しとやべることになるが「大学の学園祭」において統一テーマすら導入せずに存在させようとする限り、この底辺から抜け切ることはできないだろう。もちろん形式的にテーマを掲揚すれば事足りるということではない。各パートクラブ間が、表面協調的姿勢から生れた副産物として、一方では現実を見つめようとする●動を混乱させ、自己の部屋の声を聞き、その井戸の自己クラブの研鑽と練磨に努力しようとするのである。

それからクラブから発表された内容はなるほど成長の跡が伺われた。だがそこでは学生を、自己の客体として集めている感が強い。文化的前衛体としての大学の使命は、ここで発揮を残り返えすのである。

今回の学園祭を一つの試練とし次回はもう一段高い次元での学園祭に導きたいものである。

冬季休暇を約一週間前にして十二月十二日自治委員会が習慣化に終始してしまった。まず学友会における自治委員諸君の立場、そして四十三名の自治委員のあり方について四十三名の自治委員はどのように認識しているのだろうか。誠実に思いもなく、ということで誠実に学会活動を全なく言い四十三名の自治委員会がわずか十人程の出席と五名の委任状によって成立したのである。

一体全名の委任状は、学生大会を前にした委員会で何の発言をし得るのか。

「報告」として取り上げられた冬季休暇以後の学友会活動の報告と、秋季学生大会についてであった。この自治委員会において今年の学友会活動の骨格が決定してしまった。まず学友会における自治委員諸君の立場、そして自治委員会

'63年 その流動の側面

新聞企業化の危険性
―その歴史から現代への分析―

▽……一九六三年。二大勢力が過去の冷戦状態を脱し、平和共存路線を強力に推進し始めた年。この年、日本国内においては、資本主義社会に必然的に存するブルジョアジーとプロレタリアートの階級闘争の激化を一層宿骨にしたのみであった。この中にあって、マス・コミュニケーション、殊に一般商業新聞の報道・評論はいかなる形態で……△

▽……「十年一昔」とは世間一般によくいわれたことばであるが、今やこの一昔」の世界である。その流れの中にあっても、ラジオやテレビとの速報性に比して、重視されるのは"新聞"である。現代における新聞は、速報性よりも真実性が重視され、その報道内容の国民に与える効果というものは絶大なものであろう。本来、新聞の使命というものは、中立報道すなわち客観的な報道と公正な評論による国民一般への指導性と、真実の報道に存する。一般商業紙は日本においては特に読者層の範囲が広いために、常に客観的な立場からのニュースが必要であり、またそれが編集活動にも生かされねばならない。殊に社説などの評論部に関しては右にも左にも片寄らない中道を行く公正なものが必要である。新聞の使命の一つである指導性ということを考えるとき、このことはもっとも重要であろう。現代のように、人間の営なむ生活時としてはマッハあるいは宇宙速度で世界の流れを支配する「一年一昔」の世界である。

新聞の使命―公共性

その流れの中にあっても、ラジオやテレビとの速報性に比して、重視されるのは"新聞"である。現代における新聞は、速報性よりも真実性が重視され、その報道内容の国民に与える効果というものは絶大なものであろう。本来、新聞の使命というものは、中立報道すなわち客観的な報道と公正な評論による国民一般への指導性と、真実の報道に存する。一般商業紙は日本においては特に読者層の範囲が広いために、常に客観的な立場からのニュースが必要であり、またそれが編集活動にも生かされねばならない。殊に社説などの評論部に関しては右にも左にも片寄らない中道を行く公正なものが必要である。新聞の使命の一つである指導性ということを考えるとき、このことはもっとも重要であろう。

歴史上にみる危険性

日本の新聞の歴史は、江戸時代末期の瓦版と呼ばれたごく簡単なものから出発し、以来百年余り続いている。明治時代においては、新聞の力は絶大であり、政治面にもかなりな影響を及ぼしたのである。新聞の力というよりは新聞人の有能さというか、インテリ階級であるというエリート意識による政治的関心のゆえんであろう。この時代には新聞人から政治家への進出も当然、それだけに国民に与えた新聞人の偉大さ、すなわち新聞が偉大な権力を持つものだという感じは根深いものであった。逆にいえば、この当時の新聞には客観的な立場での新聞編集というべき新聞本来の姿から遠のき、極言すれば新聞があって政治が存在するといった危険な要素をはらんでいたわけである。常に新聞は正しかったわけで否、正しいと大衆に信じさせたにすぎなかったとも言える。この状態は明治初期に軍部の力が増大し、本格的な帝国主義路線が敷かれるまで強弱はあったにしても続いてきたのである。

二・二六事件の際、反乱軍青年将校の一団は朝日新聞東京本社を襲撃し、その全部を占拠してしまったものである。このことは当時の新聞の力を物語るものであり、以後、帝国主義路線推進にあたって軍部の言論界、殊に新聞業界への圧力は絶に激烈きわまりないものとなっていた。第二次世界大戦を前に、そしてその最中も軍部の利益となり、国民に軍部は正しいことをやっているのだと信じこませ、安心させるための手段としてのみ利用されてきた。そうしなければ、新聞は存在しえなかったのであり、まして公正・中立報道や評論などあり得なかった。正に新聞にとって暗黒の時代であったわけである。治安維持法が発布されるや、言論の自由が確保されるや、新聞は"社会の公器"として活発な動きを示すことになる。当時、朝日新聞は有名な「国民の声を声とする」との宣言を旗印に、進歩的な思想を普及に努々と国民の利益代表としての活躍を始めた。他の有力な新聞も同様に"言論の自由"という水を得た魚のように泳ぎまわった。しかし大戦後十五年、農政府が安保条約改悪を叫んで、国内を二分し、一部には革命ぼっ発の危機だとまでいわしめたころより、各新聞の論調はガラリと様相を変化させた。新聞とは昔から進歩的なものだと思われていたのが、全く逆に保守的な要素を強く打ちだしてきたのである。最近では、ケネディ暗殺の各紙の扱い方は極端にケネディ賞讃の辞を六巻くしている。三段・三振を越えた彼の個人的人気は相当なものであったが、残した業績に対する批判など皆無であり、何から何まで美化して飾ったことなど、少なからず問題がある。

資本家意識への移行

日本の新聞は購売方法などの点で海外のそれに比して全く違った形態をとっている。発行部数が圧倒的に多く、月ぎめによる家庭内への配布という購売ルートが中心である。そして広告料の収入よりもこの購売料による収入に依存する傾向が強かった過去においては、各紙とも国民の利益代表であるという自負に燃えていた。それが、今では宣伝・広告の重要性が叫ばれる時代の流れにさからえず、広告収入と購売料の比の逆転によって、立場は百八十度転換してしまった。広告主の圧力が強まったことは否定できない。すなわち資本家との妥協が必要となってきて、国民の利益代表となり得ないところまで追いつめられた。新聞紙面の力も独占化が進めば進むほど、資本家としての意識が頭をもたげてきたのである。

打開策はどこにも存せず、新聞として生きる道は、国民を捨てて、自ら資本家階級としての意識の上に立った歩みを始めねばならなくなった。自他ともに許してきた国民の利益代表という方針は完全崩壊、事件以後、あっけなく崩壊していったのである。

"社会の公器"は過去のものとなり、各紙の編集活動に従事していた進歩的な残人かの記者も第二線からしり退かされ、苦しいの一語につきるものであり、安易な考え方で四年間を過せるものではない。その余韻を山岳活動に求め、苦しいファイトと努力には惜しみなく讃辞をおくりたい。しかしながら、山岳活動にとっては一つのハンディキャップであり、時としては潤い変じて破局となり得るのであって、山岳活動自体が生易しい考えでは遂行できるものではないのである。

昼間の大学山岳部に比して、二部山岳部のトレーニングは貧弱であり、合宿自体も一ヶ月と一週間の違いでは、いかにしても昼間大学における山岳活動と同じレベルに持っていこうとしても、そこには無理が生ずる。山での無理は生命につながるものであり、この点を二部山岳部は再度、検討を要するであろう。

山岳活動というものは、大学在学中四年間という短期間では決して完遂し得るものではなく、長期的かつ根底な計画と、具体的な目的を有して実践されねばならない。幸い、反省会の席上で吉田山岳部長は従来の方針を持たれており、部員にそのことを注意されていた。しかも平田主将も、以後この問題で妥協することなく、逆にこれを土台として頑張りたいと述べている。

二部山岳部としては、現実の生活に即し、すなわち先に述べたような大きなハンディキップを克服し得る計画と目的を持って、今後の山岳活動を続けていくことに期待するものである。

国際

その平和へのぜん動
苦悶の中からの課題

○……ここ数年、各国の政局にとって最大の課題であった"平和への前進"という大きな問題は、部分的ではあるが核○……停条約の調印により、その礎が印されたが。○……しかし唯一の原爆被害国であるわが国において"平和"○……への大きな支柱であった"原水爆禁止世界大会"の分裂○……は、その以前からある程度予想することが、できたにせ○……よ、世界の政局の動行とは、あい反した皮肉な動きであ○……るといわざるを得ないものがある。

○……それから六月とたたない時点において、全世界を震色と化した事件が起った。ケネディ暗殺事件である。あまりにも予測を反したことでありかつまた、不幸な事件のため各国の政局は大いに動揺した。しかしそのほとぼりもさめ世○……界が、また平穏なそれに、帰っていった今の時点で、ケネ○……ディ路線といわれるものの矛盾に対し、かつまた米新大○……統領ジョンソンに対する"矛盾のない真の平和"の期待、○……といったものについて考える必要があるのではなかろうか。……○

南ベトナムの効果

一九六三年の、予測をこえた事態は、個々の時点の流動的状況に、一層の混乱を加えた。われわれが、過去の今年一ヶ年の激動の中で、国際的諸問題を考える時、六四年への期待は、おのずと不安を加えてくる。六三年、国際諸問題は、米・ソ関係を語ることによって少なからずその核心をつけるものになると思う。米ソ関係いかんれば、東アジア――ブルジョアジー勢力の展開である。

この中で米国が国際社会に演じた役割は何であったか。その一つに南ベトナムの政変がある。前国・本誌（一五三号）でもとり上げたように、時代政局に一つの波紋を投じたとの問題も、新しく生れたのが軍事政権であるにせよ一応の結果はつけられた。

しかし、南ベトナムのリーダーで、ゴ・ジンジェム政府が倒れたことはアメリカ帝国主義にとって、一つの重荷がとれたことには間違いない。が、新政府も、大衆とはまったく縁のない軍事政権であるとすれば、一体、ベトナム人自身に取っては何を意味しているのだろうか。

南ベトナムのクーデターで明確にいえることは、現地人に取って言論統制の名前が変っただけにすぎないということである。これはしかしたCIAには直接関係はなくても、アメリカ、それ自体の責任という点からみれば、まぬがれるべき筋のものではない。クーデターの指導者のほとんどのものが、アメリカ軍事顧問団と密なるものであったと推測されている。クーデター指導者が、この時アメリカの後援をなんら意識せずに、ことを運んだと誰が考えられようか。アメリカは、その結果における責任のものにも、責任を持たねばならなくなったのである。しかしアメリカのアジア政策としてインドシナ情勢のカギは、いぜんとしてこの南ベトナムであろう。アメリカがここを反共の拠点とする場合、新しい軍事政権がベトコンを鎮圧することができるかどうか。新政権には内部問題が多分に含まれている上に、以前ベトコンに大衆が、どこまで協力戦線を引くかが問題となるところであろう。しかし、米軍人と南ベトナム軍による対ベトコン戦の成果がアメリカにとっても明年の大きな問題となるであろう。

この米国の減じた役割は国際社会に与えたショックが大であるだけに特に注目されている。その批判も厳しかるべきである。そしてアメリカ自身テン・アメリカのクーデターに非難的態度をとっている一方南ベトナムを承認するのでは理に合わない。そこで公式見解としては南ベトナムの場合はすでに、ことの最中であり政権交代にあたってやむをえないという見解に立つことで、これを認めようとしていると考えられる。ソ連を筆頭として、社会主義諸国による力ケ文、アメリカなどからの小苦言付けに代表されるように、それから六月とたたない時点において、全世界を震色と化した事件が起った。ケネディ暗殺事件である。あまりにも予測を反したことでありかつまた、不幸な事件のため各国の政局は大いに動揺した。しかしそのほとぼりもさめ世界が、また平穏なそれに、帰っていった今の時点で、ケネディ路線といわれるものの矛盾に対し、かつまた米新大統領ジョンソンに対する"矛盾のない真の平和"の期待、といったものについて考える必要があるのではなかろうか。

六三年はヨーロッパ金城（東欧だけでなく）は問題物の不作が伝えられる。米ソ間における平和共存の歩みとはどこで、モスクワの部分核実験条約調印に対する評価と同条約を核とする今後の政局に注目される。

今世紀、その核用は激増であり、また一側面では人類平和共存の大無線であるといわれる"核"そのために、平和を擁護するすべての人々は、大量の殺りく兵器の禁止と全廃軍約のために、これまで長い間闘ってきた。この闘いの結果、第一歩が踏み出された。つまり六三年、水中における核実験禁止条約が調印されたのである。モスクワで調印された条約は、世界が軍縮に向い、われわれの平和共存の考えが、すべての国の政策の上に基本的な前提となる時代の一つの歩みであると希望する。モスクワのこの条約にはまた別の人道的な面をも見ることができよう。同条約によって大気中での核兵器爆発の間に放出される、多量の"死の灰"による大気が異常に汚染される危険が取り除かれた。平和そのぞみロケットと核兵器の彼岸方を知る人々はすべて、核兵器を所有する国の指導者たちによる影響力の大なる行為として同条約を歓迎したのである。

その"誠実"を期待

その後、ジョンソン米新大統領が就任し十一月二十七日、米議会上院外交委員会議で初の施政方針演説を行なった。ジョンソン大統領は演説の中で、故ケネディ大統領の意思を継ぎ、ケネディ暗殺は米国市民にとって真珠湾奇襲の衝撃を与えたこの二大事件は、それぞれ一つの神話を打ち破ったものである。直珠湾は自人侵略の神話を、ケネディ暗殺は民主主義の模範国――米国の神話を――。民主主義の本家といわれるアメリカ何故このようなことが起り得たか。日本人はおろか、米国人はただとまどうのである。だが、ケネディの暗殺は、米国市民にとって真珠湾奇襲の衝撃を与えたこの二大事件は、それぞれ一つの神話を打ち破ったものである。直珠湾は自人侵略の神話を、ケネディ暗殺は民主主義の模範国――米国の神話を――。民主主義の本家といわれるアメリカ何故このようなことが起り得たか。日本人はおろか、米国人はただとまどうのである。だが、その"民主主義"がどんなに暗い半面を持っているかを知っているならば、それは起るべくして起ったとはいえよう。

原因は其社会にあっては、人々は完全に自由であったが、その代償として非文化的生活を余儀なくされた。人類が文化を創造するためには誰かが犠牲になる必要があった。しかるに人間はすべて平等であるという観念は抽象的なものと移る必要性を強調して、ケネディ路線の継承を言明した。

注目された外交政策については、米国は「南ベトナムより西ベルリンに至るまで」の全世界に対した米国の約束を守ること、と同時に意見を異にする国々とも会談を求めるため、あらゆる努力をたむけることを誓い、平和追求への理念と精神の決意を表明した。ジョンソン大統領のこの演説は、不時の染代に直面したという現時点の段階ではやむをえないことで、新政権の政策は不安から脱しきれないとどまっている。

ジョンソン大統領にとっては、今後の独自の新政策を打ち出すにはしばらく時間と思考の余裕を必要とするであろうが、新大統領は、故ケネディ大統領時代に少なからず対外交面に参画していなかったと考えられるだけに、漠然たる故人からの遺産として引きついだ諸々の政策面を十分に検討する余裕を必要とするものであろう。新大統領の具体的政策は年頭教書を待つほかはないであろうが、新大統領の政策を引き継ぐだけにとどまらず、これらの政策の補強となっているケネディ前大統領の平和理念を受けつぐ意志を現わしている。

しかし現実の国際政局に関しては不安が解消したわけではない。仮りに前大統領が健在であったと仮定した場合にも、国際政局には多くの難問題が山積みされているのである。

現在われわれがジョンソン新大統領に希望するべきものは、故人の示した平和理念のより深い真の平和の追求とそれをどこまでも実行に移す莫大なる勇気を望むのである。

ケネディ暗殺に思う
限界にきた米資本主義
――文学部三年次　平岡　武

その"民主主義"がどんなに暗い半面を持っているかを知っているならば、それは起るべくして起ったとはいえよう。

原因は其社会にあっては、人々は完全に自由であったが、その代償として非文化的生活を余儀なくされた。人類が文化を創造するためには誰かが犠牲になる必要があった。しかるに人間はすべて平等であるという観念は抽象的なものと移って「民主主義」は常に何らかの奴隷の上に立っている。その奴隷が目に見えるか、見えないかの違いはあるが。

人間が作り出したものに使われるのは現代の宿命である。生産のために酷使を強制したのが、産業革命によって生産力が飛躍的に増加した後でも、封建的酷使制度すべなかった。これをとり除くためにブルジョアジーは力の革命を支払われねばならなかった。だがブルジョアが自由と平等をその武器として採用した時、はっきりした酷使を正当づける根拠を失った。代えて彼らは人種の差、優劣人種と劣等人種の神話を創作した。

それは十七世紀以降の欧州ブルジョア諸国の植民地獲得競争の例、そこから必然的に生れる「白人種」

ルジョア民主主義国家の持つみにくい半面をはしなくも露呈した。人種差別政策に手をつけようとしたケネディは倒れた。しかし日本が敗れても、その「奇妙な神話」植民地の解放は実現したように、ケネディの理想も実現に近づくであろう。

古生物学の大法則は、生物のある一つの種を一度は発達させ、増殖をもたらしたブルジョア民主主義の繁栄は、その後衰退に導く運命にあることを教えている。

米国はとびないかもしれない。しかし、それは米国が一度はその繁栄をもたらしたブルジョア民主主義を、アーリントンのケネディのかたわらに葬ることによってのみ可能なのである。

「民主主義」は常に何らかの奴隷の上に立っている。その奴隷が目に見えるか、見えないかの違いはあるが。

人間が作り出したものに使われるのは現代の宿命である。生産のために酷使を強制したのが、産業革命によって生産力が飛躍的に増加した後でも、封建的酷使制度すべなかった。これをとり除くためにブルジョアジーは力の革命を支払われねばならなかった。だがブルジョアが自由と平等をその武器として採用した時、はっきりした酷使を正当づける根拠を失った。代えて彼らは人種の差、優劣人種と劣等人種の神話を創作した。

それは十七世紀以降の欧州ブルジョア諸国の植民地獲得競争の例、そこから必然的に生れる「白人種」

ついているばかりでなく、米国がその「民主主義のもたらす悪思」を全世界に布教する使命を持っているという神話を信じている。だが、その神話にみちびかれて、彼らは何をしたか。日本の前近代的自民党政権を支持し、韓国の軍事政権を後援し、ベトナムの腐敗政権に手を貸すことであった。米国が「自由」を守る」ために核の恐怖を世界中に配布することであった。米国が守ろうとする「民主主義」とは何であるかを知実に示している。

国内では黒人に自由を与えようとすれば、その代りに犠牲に甘んじなければならぬ「貧しい白人」が必ず居る。米国ブルジョア民主主義は黒人に自由を与えようとすれば、その代りに犠牲に甘んじなければならぬ「貧しい白人」が必ず居る。米国ブルジョア民主主義を維持することは困難になってきた。

米国は、またこの事実を直視していない。過去の影にしがみ

殺的な学者の傾向である運動不足を克服するため、古本屋など四時間ぐらい歩かれるそうで、われわれから見れば学者らしい生活をされているように思う。

研究室の机の上にはたばこの灰皿もなく、酒も囲碁も何もしない。ただ学問の研究に打ち込んでおられる先生。

「研究するにも図書館では自分の思うような本が手に入りにくく、給料の大半を専門書に使うもっと学者の待遇もよくすべきだ」とちょっぴり不満も出る。

研究のために一生をささげようとしている学問への熱情、そのファイトが教授の全身にみなぎっている。それがわれわれを引きつけているのだ。先生からだに気をつけて下さい――と記者はいとまを乞うた。

雨天をついて学園祭
学生参加にもう一考を

教授
吉田静一（よしだ しずかづ）
社会思想史

視しみやすい教授、影りの深いいかめしい顔。「学生の間では敬遠されがちだ」と自称しておられるが、話をうかがっていると暖かい味を感じ、気持ちのよい教授である。

「二部の学生は一人前のありきたりのことをしていてはいけない。すべて人学してくる時にそれ相応の覚悟ができているのだから、昼の学生と同じような考えで毎日を送っていたらだめだ二人前のことをやるべきだ」とさびしい。

しかし「二部の学生は肉体的にも精神的にも興奮状態にあるこみ、その中で学長、学生・教学両部長の挨拶などあり、そのあと全学生が一体となってファイアストームをかこんで若き青春のエネルギーを歌声とともにせまい天六学舎校庭で行われるなど、学校全体が第十六回学園祭が去る十二月二、三、四の三日間にわたって行われた。今年はいままで毎年問題になっている一部分のクラブ関係者だけの学園祭でなく、一般学生もいっしょになって行う学園祭ということに準備委員会を中心に各クラブが努力したかいがあって、ここ数年にない盛り上った学園祭が行われた。

第一日目は校庭で過去にはみられなかった入場式が行われ各ブラ別にプラカードを先頭に入場し、まわりにを数の一般学生がとりかこんで、その中で学長、学生・教学両部長の挨拶などあり、そのあと全学生が一体となってファイアストームをかこんで若き青春のエネルギーを歌声とともにせまい天六学舎校庭で行われるなど、学校全体が一ルで軽やかなリズムにのってフォークダンスが行われ、また第三日目は一般学生多数参加のもとに学内卓球、バトミントン大会が体育館で行われるなど、学校全体が

学園祭の一コマ

バトミントン（卓球大会）（好評）

学園祭の行事として十二月四日体育館で一般学生対象の学内バトミントン卓球大会が行われた。バトミントン四十余名、卓球五十名が参加してトーナメント戦で優勝を争そった。その成績は次の通り。

バトミントンの部
優勝　朝倉、吉村チーム
二位　北村、豊嶋チーム

卓球の部
優勝　梁本、沼田、小泉チーム
三位　菊地、尾上、仁科チーム

から生活にハリをもっているし話をしていても気持がよい。しかし昼間の学生はその点よりどころのない生活をしているようだ」と率直に発言される。

冬の午後。暖かい日ざしがいっぱいさし込む研究室で温厚に熱中する三十三歳の教授は、旧制東京都立中学、東京高等学校から名古屋大学に進み卒業後京都大学人文科学研究所で助手を勤め、関大の教壇にたち、今は学究に没頭というところ。

高等学校の時、少しフランス語をかじった。それがフランスを中心とした今の研究に入った動機だという。

自分の研究はできることなら月刊雑誌のような社会の時流に乗った研究でなく、学問的に生命の長い研究、時代に沈潜した研究、いわゆる、五十年たっても百年たっても残る研究をしていきたい、という。若い教授らしく大きな望みを持って独自の道を進まれている。

また高等学校時代に北アルプス一帯を歩いて鍛えた足で一つになって真の学園祭にたちかえろうとする準備委員会、各クラブの努力がうかがえた。

過去何年かにわたって行われてきたクラブ関係者だけの学園祭を一気に変革しようとしてもできるものではないので、今後も努力してもらいたいし、また一般学生も自分たちの学園祭であるということを充分理解すべきであると各方面から期待されている。

解説
長期的計画を持て
二部山岳部活動の困難さ

近年、相つぐ山での遭難事故、特に今年一月の愛知大学山岳部十三人の死以来、各地の山岳活動に対する関心には、異常とも思えるほどの深さが感じられる。

昼間の大学においては山岳部をもたないまでもワンダーホーゲル部を有し、山岳活動は旺盛である。そういう現実の中で、関西では近畿大学と本学のみではあるが二部にも山岳部を有し、歴史は浅いながら、高度な山岳活動をやっていこうとするのは若い学生にとって当然のなりゆきといえる。

この本学二部山岳部が、学園祭を前にして遭難とまではいかなかったが、学園の内外を問わず、ひとつ騒ぎ持ち上ったことは、これからの活動に一つの課題が与えられたことになるであろう。

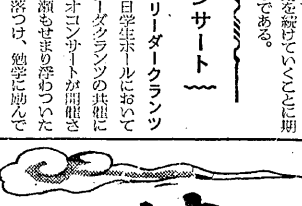
この課題は山岳部はもちろんのこと、関大二部に学ぶわれわれすべてが考え、解決していかねばならない問題である。

騒りきながら学ぶ生活というものは、決して楽なものではない。苦しいの一語につきるものであり、安易な考え方で四年間を過せるものではない。その余韻を山岳活動に求め、苦しい生活の潤いにしようとする若いファイトと努力には惜しみなく讃辞をおくりたい。しかしながら、山岳活動にとっては一つのハンディキップであり、時としては潤い変じて破局となり得るのであって、山岳活動自体が生易しい考えでは遂行できるものではないのである。

昼間の大学山岳部に比して、二部山岳部のトレーニングは貧弱であり、合宿自体も一ヶ月と一週間の違いでは、いかにしても昼間大学における山岳活動と同じレベルに持っていこうとしても、そこには無理が生ずる。山での無理は生命につながるものであり、この点を二部山岳部は再度、検討を要するであろう。

山岳活動というものは、大学在学中四年間という短期間では決して完遂し得るものではなく、長期的かつ根底な計画と、具体的な目的を有して実践されねばならない。幸い、反省会の席上で吉田山岳部長は従来の方針を持たれており、部員にそのことを注意されていた。しかも平田主将も、以後この問題で妥協することなく、逆にこれを土台として頑張りたいと述べている。

二部山岳部としては、現実の生活に即し、すなわち先に述べたような大きなハンディキップを克服し得る計画と目的を持って、今後の山岳活動を続けていくことに期待するものである。



大阪駅に着いてその無事を学長に報告する平田リーダー

コンサート
学生課、リーダークランツ

十二月十八日学生ホールにおいて学生課、リーダクランツの共催によるステレオコンサートが開催される。年の瀬もせまり浮わついた学生の心を落つけ、勉学に励んでもらおうという主旨である。多数の参加が期待されている。

黄金の新春を寿ぐ

(栄)(養)(価)(満)(点)
御休憩・御食事は
佐伯食堂
ぜひ皆様の学内食堂へ

めがね専門の店
つるみ
大阪北区天六商店街中央
TEL (351) 2754

喫茶・洋食
囲碁
将棋
ビリヤード
天六交差店北入　ロン
TEL (371) 0068・7888